

平成16年度 プロジェクト研究評価報告（毎年度評価）

プロジェクト研究課題名	食の安全性・環境負荷の軽減を志向する農業生産システムの育成とそれを支援する農政のあり方に関する研究
研究実施期間	平成16年度～18年度 平成16年度予算額：6,084千円
プロジェクト研究の概要	安全・環境負荷軽減などの消費者ニーズを満たす食品を生産する環境保全型農業等の戦略的育成を図るため、これらに先駆手に取組む経営体について分析するとともに、海外の動向との比較も行いつつ、こうした経営を志向する経営体の育成を図る条件、支援策のあり方を解明する。
<p>評価結果</p> <p>評価会議名及び開催日 農林水産政策研究所 評価委員会 平成17年2月18日</p> <p>評価委員名 坪井信広 (筑波大学教授) 野見山敏雄 (東京農工大学助教授) 矢坂雅充 (東京大学助教授)</p> <p>評価基準 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い (効率性のみ) A：妥当 B：概ね妥当 C：見直しが必要 D：妥当でない</p> <p>総合評価基準 1．順調に進行しており、 問題は無い 2．ほぼ順調であるが、 改善の余地がある 3．計画等を変更する必 要がある 4．中止すべきである</p>	<p>【評価項目ごとの評価】()は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p><必要性> 政策の企画・立案への貢献 A評価(3) 社会的ニーズへの対応 A評価(2)、B評価(1)</p> <p><効率性> 研究計画の妥当性 B評価(2)、C評価(1) 研究資源・実施体制の妥当性 A評価(1)、B評価(2)</p> <p><有効性> 研究目標の達成度・達成可能性 A評価(1)、C評価(2) 研究成果の実績 B評価(2)、C評価(1)</p> <p>【総合評価】 ほぼ順調であるが、改善の余地がある(3)</p> <p>【評価委員からの主な意見】 研究課題が輸入農産物への対抗とどのような位置関係にあるか、また関連する課題との関係を明瞭にすることが必要。</p> <p>環境を重視した農政転換の下で、本プロジェクトは大変意義があるが、研究計画がやや総花的であり、研究課題を絞ってはどうか。有機農業・環境保全型農業支援のためのシナリオを策定してほしい。</p> <p>食品の安全性確保と環境負荷の低減という課題は、これまで一体的な政策目標として捉えられることが少なかった。これら2つの基準で今後の農業生産・流通の展開方向を検討することは極めて重要であり、研究目標そのものが先駆的。しかし、それぞれの研究成果を並べ、比較するだけでは不十分であり、全体的な議論をつめて、食の安全と環境保全という21世紀の農業の中心課題について、その基本的な位置づけ、枠組みを提示してほしい。</p>
今後の対応方針	新たな食料・農業・農村基本計画も踏まえつつ、食の安全と環境保全との関係、及びそれらと輸入農産物への対抗との関係について整理しながら今後の研究を進める。